



## 米子市埋蔵文化財センターたより

第22号

2016年10月



### 日南町新屋小タイ田遺跡の調査始まる

—タタラ関係遺跡か?—



左 道路跡と小水路跡 右 竪穴建物跡

(一財)米子市文化財団埋蔵文化財調査室では、国道183号線「鍵掛峠道路整備事業」に伴う日南町新屋の小タイ田遺跡の調査を7月末から始めました。新屋地区は日南町の南西端で広島県境に接する日野川の原流域で、国道183号線鍵掛峠を越えると広島県庄原市です。

本遺跡は、新屋地区の日野川左岸の標高460メートルの水田下であり、2015年に日南町教育委員会の試掘調査で発見されました。試掘では奈良時代の土器や中世の陶器のほかに、タタラ製鉄に関係すると思われる鉄滓等が出土していました。

今回の発掘調査では、国道の西側の西3区から道路跡と小水路跡の遺構を検出しました。圃場整備前の旧図でみると、西側の谷から用水路が引かれていたと考えられる場所です。道路跡と小水路跡には大量の礫が被さっており、氾濫等で埋没したものと考えられます。道路跡では両端部に大形石を並べた土留めを、水路では杭や横木が確認されました。水路跡内や道路跡から古代、中世～近世の土器、陶器の小片がわずかに検出されたのみで遺構時期の確定はできません。また大量の鉄滓や炉壁片が検出されており、近くに鉄製錬のタタラがあったことを物語っています。

国道の東側の東1区からは、竪穴建物跡1棟、土坑2基、柱穴多数が検出され、出土土器から奈良時代の遺構と考えられます。

今後、調査は小タイ田遺跡の様子を更に追究すべく、東2～4区を精査する予定であり、新屋の古代人たちの暮らしの姿の解明が期待されます。(平木・小原)

— ついに現れた！登り石垣 —

蝉しぐれに代わり、秋の虫の音が賑やかな史跡米子城跡、発掘調査も本格化してきました。

今年度は、内膳丸から天守遠見櫓にかけて延びる登り石垣の確認調査を行っています。下草を除去し、精査したところ、なんと絵図の場所に登り石垣の一部とみられる石列が確認できました。

現在は、石垣の基部に3か所の試掘トレンチを設け、その構造の解明を進めている最中です。調査の結果、登り石垣が湊山の地形をうまく利用して構築していることがわかってきました。

米子城の本丸は湊山の山頂に築かれており、内膳丸のある北側の丸山にかけては尾根で続いています。登り石垣は、この尾根の稜線西際の岩盤をL字状に削平して、尾根の岩盤に擦り付けるようにして構築されていることが判明しました。基部をよく観察すると、石垣は岩盤に直接設置されています。高さが合わないところは根石を据えたりして、うまく調整しています。石垣に用いられた粗割石は、大きいもので長さ150cm以上、高さ80cmはあり、4段は遺存していますが、上面の失われてしまった部分も含めると6段以上はあったようで、石垣だけでも3m以上の高さがあったものと推定されます。さらに内膳丸側の石垣についても、積み方が登り石垣と同じであり、本来一連の構築物であったようです。すなわち、天守から内膳丸にかけての稜線上に長大な登り石垣が構築されていたと推定されます。また、内膳丸の郭の石垣には改修の痕跡が認められることから、本来登り石垣であった一角が後に内膳丸という郭に改変された可能性が考えられます。

登り石垣が文禄慶長の役参戦後に吉川広家が米子城に持ち込んだ技術だとすると、その後に入った城主による改修が想定されます。鞍部に設けられた御門部分の発掘調査においても2時期の遺構面からそれぞれ柱の礎石が確認されたことから、大きく2回の改修が行われたことは確かなようです。果たして、登り石垣は天守遠見櫓まで続いているのでしょうか？ 調査はまだまだ続きます。

(文化課 濱野)



米子城跡登り石垣位置図

検出された登り石垣

## 整理室たより

### 日南町出土土器の整理 ―三吉密ヶ塚(みよしみつがざこ)遺跡の弥生式土器群―



復元整理した  
出土土器の一部

日南町新屋地内での発掘調査の準備を進めていた6月のある日、日南町教育委員会の伊田直起氏より、日南町石見地区から出土した弥生土器の中に興味深い資料があるとの連絡を受けました。現物は日南町教育委員会で保管されており、一括整理するために当センターに預かりました。この土器を一目見た瞬間、備後北部・備中地方の特徴を持った土器であることがわかりました。

日南町内では、これまでに震遺跡群などの発掘調査が行われていましたが、弥生時代遺跡の調査事例が少なく、どのような土器が使用されていたのかは謎のままでした。今回整理した弥生土器は、こうした謎を解く鍵となる資料です。

伊田氏によると「この土器は、平成26年の4月に日南町石見大字三吉の、やや奥まった丘陵斜面から偶然発見されました。出土した時の状況は、崖崩れで崩壊した斜面の地表面から1～1.5m下の崖面に、全ての土器が口縁部を下に向けた状態で見つかりました。」遺跡の性格はわかりませんが、全ての土器がほぼ完全な状態で埋められていたと推測されることから、貯蔵穴内に置かれていたものか、あるいは埋葬施設の供献土器として使用されたものと思われます。

出土した土器は1点を除きほぼ完形で、注口土器1点、高坏1点、大型壺1点、小型壺2点、算盤玉形壺2点、徳利形壺1点、甕5点の全13点です。この中でも、注口土器は備後北部地方の塩町式土器に、壺は備中地方の上東式土器に類似するものであることから、弥生時代の中期後半頃に西伯耆地方の山間部には山陽地方の特徴を持った土器が流通していた可能性があります。

現在、これらの土器は当センターで実測と復元整理作業を行っています。整理完了後には、土器が出土した現地踏査を行い、遺跡の性格を解明したいと考えています。(佐伯)

## センター・資料館日誌

- 6月24日(金) 松江国引き学園の史跡巡りで尾高城跡ガイドを実施
- 7月1日(金) 米子南高校生3名をインターンシップで受け入れた。  
白鳳展示館長谷川副館長が上淀廃寺壁画調査で来館された。鳥取県文化課玉木氏が城瓦調査で来館された。
- 7月7日(木) 鳥取県教育文化財団小山氏が百塚第1遺跡玉類調査で来館。
- 7月16日(日) 山陰中近世瓦研究会が研修室で開催された。
- 7月25日(月) こども夏休み体験ツアーで来館。
- 7月27日(水) 啓成なかよし学級を皮切りに夏休みの出前講座を開始した。
- 7月30日(土) 施設連携事業米子市公会堂エルモール七夕夏祭りへ展示と勾玉づくりブースを出店した。



公会堂エルモール七夕夏祭り勾玉づくり

- 8月3日(水) パジャ学童保育の小学生を古代勾玉づくり体験を受け入れた。
- 8月12日(金) 万葉歴史館の田鍬学芸員が上淀廃寺の壁画調査で来館された。
- 8月19日(金) なかよし学級夏休みの出前講座を21学級実施して終了した。

- 8月21日(日) 考古学教室第1回「親子で作る勾玉」を開催した。
- 8月22日(月) むきばんだ遺跡ボランティア団体が施設研修で来館された。
- 9月2日(金) 県史編さん室の湯村氏が日南出土土器の調査で来館された。
- 9月5日(月) 京都大学院生が馬具調査で来館された。
- 9月7日(水) 奈良大生が上淀廃寺の瓦調査で来館された。
- 9月16日(金) 木更津市郷土博物館から縄文土器借用で学芸員が来館された。
- 9月19日(月) 上淀廃寺彼岸花まじりの支援協力を行った。
- 9月21日(水) 岡山大生が上福万遺跡の縄文土器調査で来館された。
- 9月28日(水) 樫原考古学研究所研究員が炭化米の借用で来館された。

## 編集後記

7～8月にかけて連日30度越えの猛暑が、9月へ入ると嘘の様に涼しくなり、季節は確実に巡ってくることを実感します。

今年も文化課職員の協力を得て、夏休み期間中のなかよし学級への出前講座が実施出来ました。暑い中で子供たちも頑張っていました。

発掘調査では調査担当者が日南町までの遠路を朝早くから通勤されており、頭が下がります。

発行日 平成28年10月6日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp